



もっと

深い
コーヒー

2023~2024年度まとめ

74号

はしがき

国立市公民館青年室の活動記録誌『冊子 コーヒーハウス 74』が完成しました。この号では、2023・2024年度の活動の記録を掲載しています。

サブタイトルは「もっと深いリ コーヒーハウス」。冊子編集委員のスタッフみんなと相談して決めました。もちろん、コーヒーの焙煎とかけています。コーヒーハウスに関わっていると、活動のことやお互いのこと、あれやこれや、もっとじっくり深く味わいたくなってくる……。そんな想いのつまった1冊です。

ぜひお手にとって、気になるページからご覧いただけますと幸いです。

公民館青年室担当職員一同

目次

I. 「コーヒーハウス」ってなんだろう？	
“コーヒーハウス”ってどんなところ？	2
メンバーインタビュー	4
LABO☆くにスタとCH 座談会	9
実習生寄稿	15
II. 活動記録 しょうがいしゃ青年教室	
スポーツ	20
料理	23
クラフト	26
YYW	29
リトミック	32
身体表現	34
喫茶実習	35
III. 活動記録 年間行事/部活など	
BBQ/ソフトボール大会/クリスマス会/ バスハイク・合宿	40~47
LINK くにたち/山部/ラーメン部	48~52
IV. みんなの文集	
シン・わたしとコーヒーハウス	54~79
V. 資料いろいろ	
くにたち公民館だより抜粋	82~87
新・チラシ	88~89

「コーヒーハウス」

LABO☆KUNINGA

「コーヒーハウス」ってどんなところ？ 2

メンバーインタビュー 4

LABO☆くにスタとCH 座談会 9

令和6年度社会教育実習生 寄稿 15

“コーヒーハウス”ってどんなところ？

○コーヒーハウスとは

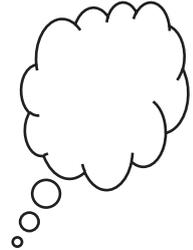
国立市公民館を拠点に、若者たちが主体となり、育ってきた環境の違いやしょうがいの有無を超え、楽しみあい・学びあっている活動です。

ある時は、ふらっとコーヒーやお茶を飲みに行く場所。

ある時は、思いついたことを誰かと一緒に試してみる場所。

ある時は、ただ何もせずのんびりする場所。

異なる人たちの自由なたまり場として、コーヒーハウスはあります。



○活動について

1. しょうがいしゃ青年教室（通称：「講座」「しょう青」）

分野ごとに6つのコースに分かれて開催している教室。メンバーはこの中から年度ごとに2つを選んで参加しています。（※身体表現のみ別枠）。

講座の後は、感想・気づいたこと・アモクラの内容共有等の振り返りをします。

講座名	日時	内容
スポーツ	第1土曜 14:00~16:00	公民館地下ホールや市内の体育館でスポーツをします
料理	第3土曜 16:30~19:00	公民館の実習室で料理をします
クラフト	第3土曜 13:30~15:00	工芸・アート作品を手作りします
YYW	土日の午後（毎回異なる）	日時も内容も毎回みんなで話し合っ決めて、フリーダムな講座です
喫茶実習	わいがやの開店日	メンバー（喫茶実習生）とスタッフが一緒にわいがやを営業します
リトミック	第2土曜 10:30~12:00 14:00~16:00	音楽のリズムに合わせて、身体を動かしたり歌ったりします
身体表現	第4土曜 14:00~16:00 ※11月まで	小学生~大人が柔軟体操や創作ダンスをし、12月にはクリスマス会で発表します

2. 喫茶わいがや

公民館1階ロビーにある喫茶店。社会人や学生のスタッフで運営し、しょうがいしゃ青年

教室「喫茶実習」のメンバーも参加しています。市民による自主団体「障害をこえてともに自立する会」が運営しています。(年会費 1000 円、入会者募集中)

3. 青年講座

コーヒーハウスの人々が自由に企画して学びあう講座。「みんなで学びたい」「この人の話を聞きたい」というアイデアを、公民館事業の市民公開講座という形で実現します。

例：

- ・登山（初心者山部スタッフが講師）
- ・外部講師を招いた講演会・座談会
(若者の生き方、LGBT、社会的包摂、働き方、居場所カフェ)

4. 年間行事

コーヒーハウスの参加者全体が集まる季節ごとの行事です。

月	行事名	内容
4月	お花見会	花見又は室内懇親会（雑談、ゲーム、映画鑑賞等）
7月	夏企画	バーベキュー（コロナ禍では手作り夏祭り、盆踊り等）
10月	ソフトボール大会	スポーツ講座と合同のソフトボール大会
12月	クリスマス会	各講座の活動発表、出し物、ケーキ喫食
1月	もちつき大会	もちつき（コロナ禍では正月遊び、大喜利大会、おしるこなど）
3月	合宿	1泊2日の旅行（コロナ禍では日帰り旅行）

5. 部活

上記以外の自然発生的な自習活動です。

- ・活動中：ラーメン部・初心者山部・LINK くにたち（大学通りリレーマラソンへ参加）
- ・休止中：炊き出し DIY（青年室で料理や DIY をする）・球戯部・DJ 部・ラズベリーパイ部（電子工作）

○活動拠点

1. 喫茶わいがや
2. 青年室

喫茶わいがやの隣の 10 畳間。講座・企画の実施や、単なるたまり場として、コーヒーハウスの参加者で共同管理・利用しています。

コーヒーハウスに昔からいるメンバーにインタビューしました！！



～Yさん～

聞き手：針山・上野・松井・ゆじん・片岡・貴央・保科

話し手：Yさん

◎プロフィールを教えてください

針山：女性に年齢を聞くのはあれですけどおいくつですか？

Y：いま42。

◎普段はなにをなさっているのですか？

針山：ふだんは、どんなお仕事をされてるんですか？

Y：普段は、あのスーパーの青果部門で働いています。ほかのパートさんの切った四分の一のキャベツとか大根の袋詰めをしたりとか、きゅうりを三本袋詰めしたりとか、なすを三本袋詰めしたりとか、仕事は、平日やって、出勤日が月火木金だいたい出勤して、土日が、公民館だったりあと西八王子の「わくわく」に行ってますね。

針山：「わくわく」は何やってるの？

Y：土曜日に「わくわく」のクリスマス会やって次の日公民館のクリスマス会行って、みたいなのとか、レジンでこういう作品を作る。

針山：作品作りとか、クラフトみたいなことかな？

Y：カラオケとかで歌ったりとか、あとは「はたらく細胞」の映画を見に行こうとか。

針山：映画見に行ったりとか、へえ、いろんなことやってるんだね。それは毎週活動はあるの？

Y：うん。

◎コーヒーハウスにはいつから？

針山：いつ頃からコーヒーハウスに来てますか？

Y：前に生活講座から入ってって、それからYYWに入って。

針山：いくつくらいの時に生活講座に？

Y：健さんの時でした。職員の山崎健さん。

で最初はその生活講座にいて、YYWになってから、入って…。

針山：なるほど、生活講座に入って、でそのあと生活講座がYYWに変わって、ずっとそれは続ける、ってことだよね。で、あとYさんはスポーツも入ってるでしょ？

松井：ほかの講座に登録してみたことはないんですか？

Y：全然ない。

針山：じゃあ、ずっと生活（YYW）とスポーツー筋なんだ。

◎思い出に残っていること

針山：なんかこれ楽しかった、これすごい覚えているみたいなことってある？

Y：スポーツ講座のソフトボール大会が楽しかったこと。

針山：ソフトボール、どんどん上手になってるって聞いたよ。

Y：でもあの井口さんとかのプレッシャーにはまだ（笑）あのほら角野さんもガーってくるんだよね（笑）井口さんと角野さんのプレッシャーがちょっと（笑）

針山：なるほど、ああいう応援してるんだと思うんだけどね（笑）じゃあ、ソフトボールとか身体動かすの好きなんだね。

◎合宿実行委員での活躍

針山：合宿の実行委員をずっとやってくれてるじゃん。それは、いつくらいから？

Y：いつくらいだったか、箱根のときからかな。最初にやったけど、あの七平さんって人にバスレクやったりとか、そっからなんかずっと続けたいっ

ていう。

松井：毎年やってるんですか？

Y：毎年ずっとやって、うん。

針山：やっぱそれは、合宿が好きだから？

Y：うん

針山：なんでYさんは合宿が好きなんだろう？旅行とか好きってこと？

Y：そう旅行は一応好き。

針山：じゃあ最初に七平さんとバスレクやって、バスレク楽しいなって思ったの？

Y：ずっとやって、楽しいなって。

針山：バスレクでクイズとかいつも作るじゃん？クイズ作るのが楽しいの？

Y：楽しい。

針山：なんか合宿実行委員さ、ふだんの活動と別に集まったりとかで、ちょっと大変かなっていうのは全然思わないのは、やっぱり楽しいとか、やりがいがあるのかな？

Y：やりがいはうんある。

◎コーヒーハウスのいいところ

針山：コーヒーハウスのいいところってどんなところ？

Y：バーベキューも楽しいし、ソフトボールもやって楽しいし、あとは合宿？もコーヒーハウスで行くの楽しいなって。

針山：いろんな楽しいことがコーヒーハウスに来ると、いっぱいできるのいいのかな。

◎これからコーヒーハウスでしたいこと

上野：今後、これからコーヒーハウスのみんなと行ってみたい場所とかやってみたいこととかって、あたりですか？

ゆじん：遊園地。

上野：動物園とか？

Y：動物園だったら楽しい。

針山：そっか。動物園好きだよ。前アニマル部って入ってたよね。

Y：そう入ってた入ってた。

松井：アニマル部行った頃は覚えてますか？

Y：なんか覚えてる。

松井：どこ行って楽しかったとか…。

Y：当時は羽村とか。

片岡：パン部出てなかったっけ？

Y：パン部も一応出てましたよ。なんか井口さんが子どもたちを連れてきたのは覚えてる。

針山：井口さんのお子さんとか、弟さんのお子さんとか。すごい会いたいとか可愛いとか、言ってるじゃん？ちっちゃい子好き？

Y：うん。

針山：これからまた、合宿実行委員とか始まって、クイズとか考えるの頑張ろうって感じかな？活躍できるのが…ちなみに横浜だとどこ行きたいとかある？

Y：横浜シーパラ。

松井：何見たいんですか？

Y：なんだっけイルカ。

針山：イルカショー。

◎たかお、最後になにかある？

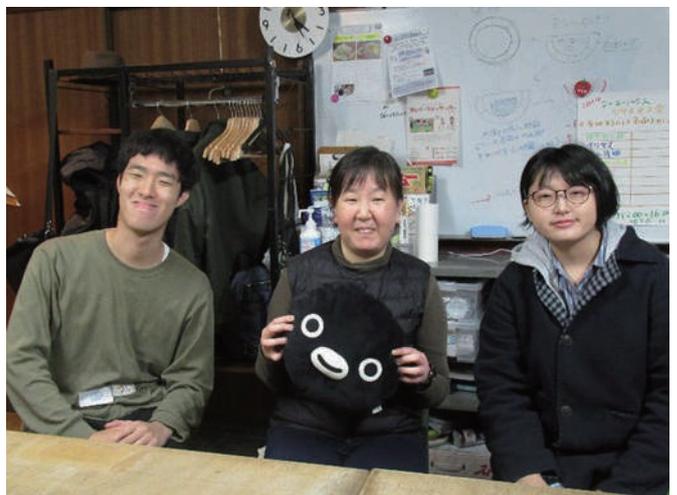
貴央：コーヒーハウスは、いい感じですか…？

一同：笑笑

Y：いい感じです。

一同：笑笑

針山：コーヒーハウスいい感じってことで、終わりますでしょうか。ありがとうございました。



～島田昌昭さん～

聞き手：井口・針山・森本・米川

話し手：島田昌昭さん

◎プロフィールを教えてください

針山：今年でいくつになられますか？

島田：59になった。

井口：還暦間近！

針山：どんなお仕事をされているんですか？

島田：天成舎で仕事してます。キャップわけたり、外の花壇に水をやったり、あと、袋の底を入れる。

◎コーヒーハウスにはいつから？

針山：コーヒーハウスにはいつ頃来たんですか？

島田：40年前。

針山：19歳の時？コーヒーハウスに来たきっかけは何だったんですか？

島田：針山さんたちの大先輩にあたる、平林さんがスポーツセンターに来た。そこで話を聞いてきた。

井口：最初はどんな活動をしてたんですか？

島田：学習班。

井口：学習ってどんな学習をやってたんですか？

島田：さあ俺もよく知らないけど。

井口：覚えてない？

島田：なにしろ途中から入ったから。その翌年からだんだんと学習班は変わっていった。

針山：なるほど、学習班に入った次の年から、ちょっと違う活動になっていったんだ？

島田：俺が来てから段々と変わり始めた。学習班を変えた人。

一同：おお～

針山：学習班を変えた男！伝説だ！笑

島田：じゃなかったら今のYYWはなかったかもしれぬ。

◎生活講座からYYWへ

針山：学習班からYYWになったの？

島田：いや、生活講座。

針山：生活講座ではどんなことやってたの？

島田：生活にふさわしいことやってた。段々とまた変化して。望月さんのところに月1回ぐらい食べに行こうとか。

井口：すごくない？望月さんがまだ一人暮らしをしてたおうちに行って、ご飯を作ったって話は聞いたことがある。

島田：生活講座にまた新たにきた人が、何かやりたい、スポーツやりたいとかって言い始めて。

森本：みんなで話し合っ決めてみたいなの？

島田：生活講座から名前を変えたのがこのYYW

井口：いつぐらいのことか覚えてますか？

島田：2000年頃じゃないかな？最初のころはややこしかったんだよ、YYW。

針山：ややこしい？

島田：最初に来た人は企画考えて、企画考えた人は参加できなくて、実行の人がやる。

針山：企画する人と実行する人に分かれてて、企画する人は実行できないの？悲しすぎる！笑

島田：そういうこと知らないで参加した。

米川：島田さんはその時どっちだったんですか？

島田：企画のほう。

針山：悲しいほう笑

◎思い出に残っていること

針山：これまで活動に参加しているなかで、印象に残っていることや思い出に残っていることはありますか？

島田：色々楽しいことがあったから。BBQやったりさ、コロナの時はできなくて、室内で夏企画やったり、あったでしょ。

針山：あったね。夏祭りやったね。

島田：入山くんの変な占い師。ラジオもやったね。

針山：そうだね、コーヒーハウスラジオ。じゃあ、BBQとかのイベントとか、コロナでいつもと違う

時が結構印象に残ってるのかな？

島田：やっぱりテイクアウトかな。できたのをここで食べないで家に帰って食べる。

針山：何とか工夫して料理講座やろうって。

島田：これほんとに料理講座？って言いたいのがあった。ほら、エプロンつくったり。なんか、いつクラフトに鞍替えしたのって。石けんつくったり。まるでクラフトだよな。

針山：スタッフとの思い出で印象に残っていることはある？

島田：やっぱり三味線女のたっち一だね。

井口：なにが思い出なんですか？三味線？

島田：三味線。合宿で三味線弾いたのはたっち一くらいだよ笑

◎合宿実行委員での活躍

針山：なんで合宿実行委員をやろうと思ったの？

島田：スタッフばかりじゃいけないかと思って。

井口：名言でたね。

島田：いろいろ考えたの。

針山：スタッフだけに苦勞かけちゃうって思って、自分も一緒に苦勞しながら作ってこうって思ってくれたんだ。

森本：実行委員でどんな時が楽しかったですか？

島田：企画を喜んでくれる人。レクの企画を考えて、その企画が通って、ウケてくれて良かった。これすべったら大変笑

井口：レクはバスレクですか？

島田：夜レク。3年連続で司会もやった。

◎これからコーヒーハウスでしたいこと

針山：これからやってみたいことはありますか？

島田：コロナの時にやってたラジオ？あれ復活させたいよ、なんでもいいから。

針山：どんなところがいいなって思ったの？

島田：大久保さんうまいよね、あのラジオの進行。

針山：じゃあ芽衣ちゃんみたいなのを自分もやってみたいなって？

島田：ずーっと言ってるんだけど。針山さんとやりたいなって。

針山：しまちゃんは司会したり進行したりするのが？

島田：好きです。

針山：なるほど！

島田：最近は水野君に取られちゃったけど笑
一同：ああ～～笑

井口：なるほど。水野さんも好きだよな。

針山：ぜひうまく分担しながら司会進行の方も。

◎島田さんにとってコーヒーハウスとは

井口：島田さんにとって、40年間、関わってきたコーヒーハウスってどんな場所ですか？

島田：いろんな講座できても、色々変えてきたなって思って。学習班、生活講座、YYW。

井口：それは島田さん“も”意見をちゃんといいながら変えてきた場所だと。やっぱりやってきてよかったですか。

島田：うん。

一同：おお～～

針山：やってきてよかったって思えるのは、しまちゃんにとって、コーヒーハウスが大事だなとか好きだなって思える場所ってことかな。

一同：ありがとうございます！

井口：すごいおもしろかった！

針山：じゃあ最後に写真を撮りませんか。



～望月巖さん&山本斉子さん～

聞き手：井口・針山・松井・鷲尾・たちー

話し手：望月巖さん・山本斉子さん

◎コーヒーハウスにはいつから？

針山：まずはお年はいくつですか？

いわお：ええ、年は73となりました。

斉子：59になりました。

井口：斉子さん。「一杯の時間」のビデオから20年ですね。覚えてますか？

斉子：ああ、覚えてます。

いわお：僕は来たのはだいたい30歳のころ。入るとき、平林さんと昔のね。あと、かねまっちゃんだ、おぼえてる。

◎お仕事のこと

いわお：むかしね。アルバイトやってた。映画館。

切符なんかやってた。

～まきのさん久々登場～

懐かしの面々、しばし中断してお話し。

いわお「まきのくん、あとでね！じゃあね！」

ステキな再会の時間となりました……。



～インタビュー再開～

いわお：(仕事は)ワークステーション行ってるんだよ僕。老人ホームの地下でやってんだよ。

松井：週何回行ってますか？

いわお：4 回くらいかな。立ってする仕事だから大変だよ。9時からお昼まで。大塩くんも。

井口：斉子さん、今天成舎は行ってるんですか？

斉子：行ってる。

斉子さん、市長選投票でお疲れのため、休憩…

◎講座と年間行事の思い出

針山：いわおさんは、ずっと生活講座からYYW、いまりトミックやってるよね。こないだ島ちゃんにインタビューしたときに、生活講座でいわおさんのおうちに行ってみなでご飯を食べたって。

いわお：そうそうそう島ちゃんとか、滝さんとかみなで集まって……。

松井：ほかに、どんな時楽しいですか？

いわお：みんなとね。旅行(合宿)が一番いいよ。

楽しいね。宴会でね。

針山：今まで長くコーヒーハウスに来てる中で思い出に残ってることとか…？

いわお：いろんなおぼえてるよ。カラオケ行ったり、映画なんか見に行ったりね。ボウリングも。

たちー：ボウリングうまいんだよね。

ボウリング世代のいわおさん、プロボウラーを語り出す……。

◎これからコーヒーハウスでしたいこと

針山：これから、いわおさんがやってみたいのは？

いわお：みなで料理をやりたいね。

針山：やっぱり料理作るの好きなの？

いわお：好きだよ。これでどうぞってやるから。

針山：あ、振舞いたいんだ。みんなに。どんな料理作りたいの？

いわお：どんな料理かなあ。いちばん簡単なのだと、野菜炒め。焼きそば。

針山：スタッフに、伝えたいメッセージは？

いわお：そうそうそう、みんな楽しいしね。みんなとねお芝居行くとね。お芝居はいいよ。見てごらん、1月は「いじわるばあさん」とか……

斉子：いじわるばあさん。

針山：じゃあそろそろ、ありがとうございました。

冊子コーヒーハウス座談会

～LABO☆くにスタとコーヒーハウス～



(座談会中の青年室。松井と香田は動き回って聞き手に。一木が記録係を務めた。)

○参加者：

- ・松井遊太郎…聞き手。無職。永遠の実習生（自称）。
- ・香田駿…東京農工大学修士1年。大学の先輩の紹介でLABOへ。いつもお疲れマルチなお兄さん。
- ・山本貫人…大学生。望月健一さんの紹介で学習者としてLABOへ。支援者を今年卒業、しょう青のスタッフとしても活躍中。キャント。
- ・高田佳太…大学4年。1年のときハギ（萩原涼平）の誘いでLABOへ。コーヒーハウスではラーメン部部长。筋トレに励む。
- ・池田茉莉百…上智大学3年。高校1年生から学習者として参加。大学2年からは支援者に。座談会中の笑い声はだいたい茉莉百さん。
- ・小宮山優羽…東京都立大学4年。昨年度社会教育実習生としてLABOとコーヒーハウスに参加。いちばんお菓子を食べてた人。
- ・一木亜瑠都…大学生。社会教育実習を経て、LABOやコーヒーハウスにスタッフとして参加中。

LABO☆くにスタってどんなところ？

★市内在住の中高生のための参加費無料の学習支援の場。月3回水曜日の18時から20時に公民館地下ホールで行っている。勉強をきっちりこなすだけでなく、友だちや大学生とお話をするなど、みんなの「居場所」を目指している。

【松井】じゃあ早速、冊子『コーヒーハウス』読んでいる人はLABOをよく知らないはずなので、LABOってどんなことしているよという。

【高田】肩書は学習支援といますか。

【香田】僕が思うLABO☆くにスタは、学習だけの個別指導塾とはちょっと違って、コミュニティとしての面も機能しているような。やっぱり生徒同士でもそうだし、支援者同士での交流もあるしという感じで、勉強以外にも全然ありみたいなコミュニティとしての面が結構強く出ている点が塾と一番違うかなという。だから、子どもたちがやりたいことをそのままできる空間だなと。

【池田】でも、学習者として来てたときは、私はめちゃ受験みたいな気持ちでいたので、結構本当に勉強を教えてもらっていた。学校で聞けないこととか、初歩過ぎて聞くのが恥ずかしいみたいなことも聞けるから。あと、大学生と関わる機会がないので、進路相談したりとかという感じで。支援者になってからは居場所をつくるというスタンスだから、ちょっと違うかも。学習者のときは、居場所を求めてという感じではなかったかなって思います。

【高田】キャント君は、学習者のときどうだった？

【山本】IQテストしに来ていました。5年ぐらい前。

【池田】でも、結構空気感は変わっていませんか？そんなことないのかな。

【香田】うん。俺もそう思う。3年前はもうちょい勉強みたいな。

【山本】3階でやっているときは、畳（和室）は結

構、今と空気が似ていたかもしれない。

【香田】ユアターン来ています、今。実習で来る前と来た後の印象、違う？

【小宮山】実習生として初めて来たときに、こんなに自由に勉強していいんだ、と。支援者としても誰かに絶対についていけないということもないし、自分で好きなところに移動して、好きなように話しかけてるとというのが、すごい自分にとって気楽で。社会教育実習生として関わってきたマインドと今の気持ちとそんなに大きくは変わらないなという感じています。

【香田】誰々が、今日、誰につくというもなく、支援者もあちこちを回ったりとか、その自由さね。

【小宮山】学習者とも支援者とも分け隔てなくというのも変なんですけど、話して、居場所として心地いいなというふうに、今も実習で来ていたときも感じました。

【松井】気持ち分かるなと思って聞いてました。他の人はある？LABO 論。

【高田】俺は、3年前はやっぱり学習支援で“学習”というのが強い感じだったけど、今は教えるのもそうなんだけど、ちょっと言い方悪いけど、ほぼ遊びに行っているみたいな、生徒、学習者と一緒に楽しみにしてるので、そういうスタンスに変わったという感じがあるかなって。

【小宮山】確かに勉強を教えに来てただけじゃなくって、支援者の人としゃべりたいとか、学習者の子、最近どうかな、話してみたいなという気持ちでも来ています。

コーヒーハウスとの出会い

【松井】じゃあ、これも「コーヒーハウス」の企画なので、その出会いを教えてください。

【香田】(青年室には)水族館行ったときに来た。

【山本】バスハイク。

【松井】それはどこ経由、誰に誘われた？

【香田】片岡(優)さんです。

【松井】いつのことですか。

【香田】おとし。

【松井】印象とかがあれば。

【香田】ちなみにボウリングも行きました。人生を通じてそういうイベント、参加したことがなかったから、新鮮だったというのがあります。いろんな人がいて、こういう考えの人もいるんだとか、新しいインスパイアをもらえますね。

【山本】元いた職員さんに紹介していただき、山部に行ったのが初。

【高田】自分は、LABO で貫人君と出会って、そこから2年前のソフトボール大会に誘われて、で、そこからズブズブになってます。

【山本】それとね、毎年、LINK 走ってるもんね。

【高田】そうそう、LINK 走ってる。

【池田】私は多分、片岡さんに誘っていただいて。

【山本】4月のあれ。

【片岡】スタッフミーティング。

【池田】おとしか。コーヒーハウスとの出会いはそれです。そんなコンスタントじゃないけど、料理講座とスポーツとに出るのと、あと、バーベキューとか合宿に行ってるくらいですかね。

【小宮山】私は社会教育実習で来て。自分の都合とか予定の空いてる日に、「あ、この講座やってる」という感じで、絶対に行かないといけないとか、そういう義務感がなく参加できるのがいいなって。



(お菓子を食べるようす。ちょうどこの頃に青年室の棚が復活し、お皿とコップも使えるように。)

LABO とコーヒーハウスのちがい

【松井】多少色の違う2つの活動をあっち行ったりこっち行ったりして見て、どうですか、違いますか？という。違うのは違うんでしょうけど。

【池田】雰囲気は絶対違います。まず関わる人が全然違うじゃないですか。中高生としょうがいがある人とか。で、スタッフもほぼ大学生だけで、LABO は。コーヒーハウスは結構大人の方もいたりとか、地域の人みたいな部分があるから違うなと思うんですけど、向き合い方の違いか。

【香田】向き合い方の違いかな、何だろうな。LABO は、僕、前に個別指導系の塾で働いてたから、その延長で来たんだけど。最近、向き合い方としては、割と素でしゃべって認めてくれる場所という感じがするんで、そのままの取り繕わない自分で。LABO で振舞ってる僕がもう本心なんで、実家と同じ。絵描いたりとかしてる。コーヒーハウスは、僕はまだそこまで、何回も行ったわけではないから。LABO はもう3年やってるから実家の安心感を出してるっていう。コミネキもどっちも参加する人なの？

【小宮山】LABO のほうがコンスタントに来て、コーヒーハウスは、頻度は落ちてますね。

【香田】実習のレポートとか、どういう違いがあるのかなって、過去にまとめてきて…。

【小宮山】LABO だと、やっぱり自分より年下の子たちと関わるので。中高生の子たちって、教科書とかを通して、「あ、それ、やったわ」みたいな懐かしさとかを感じながら、でも、今はこうなんだねとか、一定の共通点とかを持ちつつ関われるというのはあります。コーヒーハウスだと、自分より年上の方が多くて、共通点を探すのがまずすごい難しいというのがある中で、そこを掘り下げて何か共通点を見つれたりだとか、逆に全然知らない世界を持っているからこそ、それを知らうとしたりとか、そういう点で結構逆かなとは思いますが。

【香田】確かに。LABO は自分のほうが人生の先輩みたいな感じだね。

【小宮山】先輩目線で。

【池田】私は、LABO は結構関わる子が割と同じ子とかが多くて、まず、その子の最近の様子を聞くということが多いんですけど、コーヒーハウスはもっといろんな人がいる。結構マジで属性が割と違うというか、性格も全然みんな違うし、しかも毎回、同じ人としゃべるわけじゃないので、その人がどういう人なのかとか、どういうことが好きなのかみたいな、その人を知るみたいな感じで関わる人が多い気がします。

【山本】違い、うーん。そんな考えて関わってないかもしれないけど。でも、LABO に関しては特に、1対1だったときにすげえしんどくて、初対面の人と話すのは得意じゃなかったんで。今の多数対多数でもいいし、自由な形でのコミュニケーションが取れるようになったのは、今の雰囲気に一番貢献してるのはそこじゃないかなと思います。それに今、助けられてるなって感じました。

【香田】確かに1対1が苦手な人もいるからね。

【山本】コーヒーハウスとの関わり方…。みんな、お友達だと思ってる。

【香田】ああ、お友達ね、お友達。

【山本】適当に、適当だな。この適当さが、みんな、いいんじゃないかな、コーヒーハウスはって思ってます。でも、一部がちゃんと締めてくれるから、成り立つ場だとは思って、みんなで締めるところは締めてみたいな感じですかね。

【高田】キャント君も言ってたけど、ちょっと遊びに行くじゃないけど、どっちも楽しみに行くというスタンス。関わる人たちが違うから、年齢層もそうだし。LABO だと今、固定化されたメンバーでしかあまり話せてないから、めちゃくちゃいい意味でなれなれしい、お互い。なれなれしく行けるというのがいい感じとか、何というか。

【山本】上下というより、ちゃんと斜めという感じが今あるよね。

【高田】そうですね、なので俺が下なときもあるし。それはそれで楽しい。コーヒーハウスもちゃんと上下とは別に思っていない。キャントも言っただけど友達みたいな感覚に思ってますね。LABOは週3回、4回あるから…。週じゃない、月。本当固定化されたメンバーで話してるからすごい話しやすいけど、それに比べてコーヒーハウスは、あまり行けてないっていうのもあって、ちょっと遠慮しちゃうところもあるかな。

【香田】そう、もっと行けば。慣れ。慣れの問題。

【小宮山】メンバーさんとはそうだけど、スタッフとも関わられるのがいい。キャラ濃い人多いんで。

【香田】そうなんよね。だからね、楽なんよ。何か濃い人多いじゃん。だから自分を出せるの。ふだんの生活だと、マジで浮くの。小中高、ずっと浮いてきたから。このちょっとやばい発言しても許してくれる環境がありがたいな、生きやすい。

【池田】LABOは定期的に会うから、仲良くなりやすくて、同じ世代っていうのもあるし。みんなプライベート、LABO以外で会ったりできるのが良いなと思います。

【香田】自分の実家とかおうち以外の、自分を認めてくれる場所が2個、3個ぐらいあるのが拠り所として大事だと思うから。大学の研究室が例えばセカンドホームだとしたら、ここはサードホームという感じ。その居場所感はすごいし。

【池田】いや、めっちゃ分かります。

【香田】ここってさ、いつも開いてるの？いつでも来れる、こういう場所があるのもいいと思う。第2、第3の居場所として、そこが心の拠り所になっている人もいっぱいいるだろうし。僕もその1人なんですけど。これはマジで伝えたい。

【高田】自分も国立市外に住んでて、第二の故郷じゃないけど。

【池田】分かります。居場所なのはマジです。

【香田】居場所。LABOは居場所です、マジで。

【池田】コーヒーハウスも。

【香田】コーヒーハウスもLABOも居場所ってい

うので、一応、原点回帰。原点回帰。

【松井】重なるところがあって来ているわけですからね。次、つながりの話する？



(なぜかいる片岡さん(写真で座高がいちばん低い人)も話に参加をしてくれた。)

LABO とコーヒーハウスをつなげる

【香田】コーヒーハウスとLABOとのつながり。つながりというのは、これは。

【松井】今も何となくつながっているからこういう企画になっているわけだけど、どう発展させていこうかという。

【池田】コーヒーハウスって、結構LABOの先輩いません？前、LABOやってたよみたいな。

【片岡】あと、イリーが昔いて。

【松井】(LABOが)出来上がった頃。

【片岡】というか、あの世代は大抵LABOにいて、もともとものすごい密接なの。

【香田】今、つながりはスタッフじゃん。割と同じマインドで動いているからこそつながっている。

【池田】LABOの学習者の子で、コーヒーハウス来る子もいたので、新鮮だなとは思いました。

【香田】普通に楽しそう？エンジョイ？

【池田】どうなんだろう？そんなめっちゃ来てるわけじゃないですよ。

【松井】でもわいがやに入っているし。市民祭とかも。むしろ茉莉百さんあたりがガッツリ誘えば。

【池田】 たしかに。

【松井】 ラーメン部の話する？

【高田】 ラーメン部というものを運営していました。ラーメン食べ行ったり、ラーメン作ったりとかする部なので、LABO にいる高校生を、きゃんとか山部に行ったみたいにラーメン部に来てもらって、コーヒーハウスゲートウエーとして利用していきたいなみたいな意図もありつつ、ラーメンいっぱい食べたいなという。

【山本】 LABO 以外に 1 個活動つくるんだったら、ラーメン食いに行くのが一番手軽でしょうという、そういう発想です。

【香田】 ラーメンに対する信頼がすごいな。人をつなげられる。

【高田】 そう。全人類が好き。

【香田】 全人類が好き。言い過ぎだろ。

【高田】 高校生が合計 4 人ぐらい来てくれました。

【香田】 盛り上がってるな。

【高田】 ラーメン、1 回目は中華そばを作って。先月、みそラーメンを作って、公民館で。

【香田】 すごいな、作るんだ。公民館でしかも。

【高田】 麺打ちとかも自分でして、高校生と麺を打って、スープ作って、ゆでる。もっと高校生誘えたらなっていうところですね。

【香田】 例えば広告とか、みんなにお知らせして、何かそこで、コーヒーハウスとか LABO とか、



(けん玉をするまりもさん。もちろん、キャンともけん玉をしました。)

特に縛らずにイベントをしてというのも、そういう別の新しい空間で、コーヒーハウスと LABO の知り合いができたり、ちょっとこっちも行ってみようかなみたいなのも、いいつながり方かもしれないなと今思った。

【松井】 そういう意味じゃあれだよな。ラーメン食いに行ったらさ、なぜか、メンバーさんも高校生もいる会がさ。

【高田】 1 回あったんだよ。

【松井】 あれなんかも面白いつながり方だよな。

【高田】 そうだね。

【松井】 誰も意図してなかったのに急にさ、何か出会って一緒にラーメン食うわけじゃん。

【池田】 それはメンバーさんがその日いたから？

【松井】 うん、そこに。

【高田】 ここの青年室に。じゃ、一緒にいこって。

今後どうしていきたいか

【小宮山】 段々、締めかな。

【松井】 そうそう。今後どうしていかかぬみたいな話ができれば。

【香田】 難しいな。茉莉百さん、どう。

(閉館 15 分前の BGM 流れ出す)

【池田】 何か今ちょっとふと思ったのは、青年室で会ったって言っていたじゃないですか。こっでメンバーさんもぼやっといたりするし、学習者の子もここ居場所みたいにできたら、邂逅(かいこう)する瞬間があるのかなみたいな。

【香田】 青年室って結構いろんなことできる気がする。いつでも開放しているというのはでかい。

【山本】 知らない人は遠慮しちゃって使えてない部分がある。うまく認知してもらえただけでだいぶ変わるでしょうね。

【香田】 何か、最初にここにいきなり来て何か居場所にするってよりも、イベントを通して溶け込んでという人たちの居場所という感じかな、割と今は。いきなりって勇気が要るし。

【松井】学習者が部屋に入る機会ってなかなか、ないよね。支援者でもあんまりないんだよ。

【小宮山】本格的な話をするんだったら、LABO からコーヒーハウスのスタッフになるというのはできるけど、コーヒーハウスのスタッフから LABO のスタッフになるという、こっちって結構難しくないですか。

【松井】そうね、この間、ようやく1人みたいなどころはある。

【香田】何で難しいの、それ。

【池田】(LABO のスタッフは) 大学生に限定されてしまいがち。

【香田】そうかそうか。

【小宮山】って考えたときに、LABO の学習者だった子が支援者になってコーヒーハウスにもつながりを持ってという流れが一番密着できるんじゃないかな。それとスタッフになるならないじゃなくってお互い何やっているのか知らないということも結構あると思うので、一緒に何かなんやかやってみないとイベントは。

【池田】はい、重要だと思います。

【香田】めっちゃやばいんですけど、時間。

【松井】締めよう。いいこと言いながら片づける時間です。

【香田】締めにふさわしいいいこと。

【高田】ラーメン部は頑張ります。

【香田】何だろう。いや、でもこのコーヒーハウスも LABO も、結構国立市ならではの活動だから、これはすごい何か居心地もいいし、僕が今後たぶん博士課程後期に行っても、来たいなと思っています。

【高田】ラーメン部を利用して、コーヒーハウスと LABO をつなげていけたら。架け橋になりたいなと思っています。

【松井】頼もしいお言葉。

【池田】なんか全然出てこないかもちょっと。LABO とコーヒーハウスのつながり。今日の座談会をやるまで考えてなかったんですけど、自分が

どう動くかだけじゃなくて、ほかの人たちをどうつなげるかみたいな部分も今後は意識していきたいなと思いました。

【小宮山】LABO もコーヒーハウスもそれぞれ取り上げたいなって頑張っている人たちもいるし、居場所として作り上げられていれるものなので、お互いにそれを知りつつ、何か盛り上げられたらいいなと思います。

【松井】LABO、コーヒーハウスのつながりの話も出て、今後どうしていきたいかねなんていうことも話しつつ…

【山本】コーヒーハウスってなんだよという。そこが認知されないと人呼べないでしょう。

【松井】どうするのがいいだろうね。

【山本】そのために間で何かしら必要だよなって話だと私は思います。

【松井】何か新しい部活つくるか。

【山本】ラーメン部長高田、うどん部長山本で。

【小宮山】いいねいいね。

【高田】この部屋に足踏みいれてもらわないとね。

～みんな、ドタバタと写真撮影タイム～

【松井】じゃ、大急ぎで帰るということで。



(写真奥、左から香田・小宮山・池田・高田・山本、手前が松井・一木)

※座談会開催日：2024年12月18日(水)

【実習生寄稿】

2024 年度に社会教育実習生としてコーヒーハウスの活動に参加した皆さんからの寄稿です。それぞれの実習の内容や感想などを振り返りながら、「未来の国立市公民館の実習生へのメッセージ」をいただきました！



(2024 年 9 月に開催された、「国立市公民館社会教育実習生交流・学習会」のようす。過去に社会教育実習を経て、コーヒーハウススタッフとして活動している人、職員も交えてお話をする会でした。)

告白と決意

桃原清矢

社会教育実習。2024 年 7 月よりお世話になった公民館。無事に実習を終えられてホッとした。このご縁に感謝の気持ちを忘れず、実習で感じたことを綴る。

私の実習の 9 割は LABO の活動だった。日頃から中高生と接する仕事をしているだけあって、学習者のみんなと関わることはとても楽しかった。やりがいも感じた。では実習後もこの活動を！、、、とは思っていません。

なぜなら、誤解を恐れずに言えば、同じ大学生

(支援者)と関わるのが「気まずい」からだ(笑)。みんなとの距離感が掴めなくて、この先も関わっていくのに勇気がいるのだ。

随分ぶっちゃけてしまったと思う。でもそれは他の大学生のみんなも同じだと思う。実習生との距離感ってすごい難しいよね(笑)。特に LABO は個人個人の活動だし。私が逆の立場であったら、どう関わればいいのか悩むと思う。

だからと言ってくよくよしてられない。この機会に私は宣言する。私とうるは、実習後も国立公民館に関わり続けていく。みんなとも話したいので、もっと積極的に関わっていく。

また顔を合わせるのは少し気まずいですが、みんなと仲良くなりたいと思っているので、よろしくをお願いします！

関わり合い学び合い

原田涼太郎

自分が国立市公民館に実習に伺った理由は、普段大学の社会教育の授業の中でも度々お話を伺っており興味を持ったのが始まりでした。また、更に具体的な話をすると、今まで自分が経験してこなかった市が運営する公民館でどのような活動がされているのか、どのような形の人間関係を形成しているのか興味があったのです。そうしたきっかけで始まった国立市公民館での実習では職員さん、スタッフさん、メンバーさん全員で 1 つのイベントを作り上げているのだと感じた点が印象的でした。イベントの内容などメンバーさんも積極的に意見を出して活気のあるイベントだと毎回感じています。今後実習に来る方々にとっても実際に実習に来て一緒に楽しんで一緒に学ぶからこそ分かる活気、雰囲気がきっとあると思います。

国立市公民館を選んだ理由

藤村香月

私が社会教育実習先として国立市公民館を選んだ理由は2つあります。

1つ目はそれまでの大学の授業で、国立市公民館の活動を紹介されることが何度もあったからです。

実習先を選ぶとき、「せっかくなら有名な社会教育施設に行きたい！」と思い、お名前を度々聞いていた国立市公民館で実習をしたいと思いました。

2つ目の理由は、コーヒーハウスの活動に参加してみたいと思ったからです。

私は大学内で「障がい学生支援ボランティア」を行っているため、「しょうがいしゃ」の方々との活動に興味をもちました。

すでに実習期間は終わったのですが、「コーヒーハウスの活動についてもっと深く考えたい！」という思いと「壊滅的な料理の腕をなんとか向上させたい！」という思いから、しょう青の料理講座に継続的に参加しています。

国立市公民館は、多くの方が実習期間後も関わり続けたい！と思う場所ではないかと思っています。

私は社会教育実習先として国立市公民館を選んで、本当によかったと思っています！！

第3の居場所

土屋海智

国立市公民館を実習先で選んだ理由としては、第一に当事者として国立市公民館の事業に、参加してみたいと感じたからです。大学の授業の中で、国立市公民館の特徴的な事業実践を知りました。実習を通して当事者として事業に関わる中で、実践的な経験を積み多角的な視点を養いたいと考え、実習先を選びました。

実習の「LABO☆くにスタ」の活動を通して、学習

者、支援者にとって第3の居場所になり得る為には、学習者、支援者の話(ニーズ)を引き出す力、傾聴力が必要になると感じました。なぜならば、本人が必要としていること、居心地が良いと感じる場所を作る為には、その人の気持ちを引き出す必要があると実習を通して考えたからです。

これから実習に来る方は、まず公民館の利用者として、実習を楽しむということを大切にしたいと思います。

公民館での学び

沖真子

国立市公民館を実習先に選んだ理由は、「授業で度々登場する国立市公民館って一体どんな場なのだろう。」と興味を持ったからです。実習を通して、来ることを強制されない公民館における「参加したくなる学びの場」について考えました。スポーツ講座のスタッフミーティングで印象に残ったことがあります。それは次回の内容を決める際、あるスタッフの方が発した「できないのではなく、どうやったらできるのかを考えよう。」という言葉です。バレーボールが最初の候補に挙がった際は否定的な声が多かったのですが、その発言によって議論の方向性が一変し、どうすれば実現できるのかを話し合いました。スタッフや職員の方々が、誰もが楽しく参加できる方法を常に考えているか



らこそコーヒーハウスは「参加したくなる学びの場」になっていると感じました。

これから実習する皆さん、多様なバックグラウンドを持つ方々と積極的に関わり、実習を楽しんでください。

一緒に楽しむこと

五十子尚輝

国立市公民館を選んだ理由として、前年度の大学での報告会を聞き、国立市公民館で行われているコーヒーハウスの活動とLABOの活動に興味を持ったからです。実習を通じて感じたことは、実習生とは言えども、活動に対して全力で楽しむことが重要だと感じました。学習者と一緒になって楽しむことで学習者の居場所をつくることにつながると思いました。また、活動中にメンバー同士が話をしているところや助け合っている場面を見ました。このようなメンバー同士の関わりをファシリテートしていく力が職員やスタッフに求められると感じました。これから実習に来る人たちには、参加する活動に楽しんでもらいたいと思います！国立市公民館の雰囲気はすごくいいので、緊張せず頑張ってください！！

コーヒーハウスの魅力

田村杏佳

国立市公民館を実習先を選んだ理由は、授業で国立市公民館が取り上げられており活動に興味があったためです。また、大学の先生に実習先を相談した際に年齢関係なくいろんな人と交流できる実習先がいいとお伝えしたところ、国立市公民館の名前が挙がり「ここしかない！」と思いその場で即決しました。

実習の中で印象に残っているのは、コーヒーハ



ウスの活動です。料理教室でラーメンを作ったり、YYWの時間にカードゲームをする活動に参加しました。初めましてではお互いに緊張感があるものの料理やゲームをする中で打ち解けることができ、参加者の方が喜んでくださっていたことが印象に残っています。特に野球盤のゲームをした際に、試合が白熱し盛り上がったのが楽しかったです。残りの実習も楽しんで活動に参加させていただきます。

開かれた居場所

島田郁花

私は実習生としてYYW、スポーツ、クラフト、料理講座に参加させていただきました。

初日はYYWで今後の予定の話し合いだったのですが、青年室に入る前はどんな雰囲気なのだろう、馴染めるだろうかと緊張しっぱなしでした。しかし心配は不要で、気づいたらその場に自然といることができ、メンバーのみなさんと楽しみながら真剣に話し合いができていました。

コーヒーハウスでは、いい意味で特別扱いをされなかったことが強く印象に残っています。初めて来たとかいうことは関係なく、その場にいるだけで一人の仲間として受け入れてもらえる場所は、とても居心地が良いと感じました。行きたい時に訪れて楽しめること、誰に対しても開かれ、歓

迎の雰囲気をつくるのが当たり前のように行われているのは、コーヒーハウスの大きな魅力の一つなのだ実感しています。そして、活動の一参加者として得られたこの学びを、何かの形として活かすことができたらと思います。

国立市公民館と出会い

一木亜瑠都

私がここを社会教育実習先を選んだのは、LABO やコーヒーハウスの支援者としての関わり方に惹かれたからだ。私の今までの生活では中学生や障害を持つ人に関わることが非常に少ない。そんな私をここは変えてくれるし、変わってやるという期待感を抱いて選んだ。

印象に残ったのは、LABO で数学を教えていた時、中2の彼から「わかった！ありがとう」と言われたことだ。その一言でそれまで不安だった関わり方や学習支援も救われた。

ここで自分がどう変わったとか、はっきり言えないが、私の中の何かは良い方に変わり始めている。

今では、最近来たはずなのに昔から通っていたような気がする。コーヒーハウスには新たな人が次々とやってきて、既に知っている人も新しい一面が見えて、多様な新しい出会いがある。この謎の安堵感と新鮮さはコーヒーハウスの魅力だと考える。

所感①

小泉諒

私が国立市公民館を実習先を選んだ理由は、大学の授業で何度も紹介があり、そのたびに興味を抱いていたからです。全国の公民館の中でも特に歴史が深く、さまざまな講座が開かれている点に

強く魅力を感じました。「ここなら幅広い学びと体験ができる」と感じ、実習先に決めました。

実習期間中、最も心に残ったのは、参加者もスタッフも関係なく、みんなが一緒に楽しく活動していたことです。支援する側とされる側という立場の線引きがなく、自然に交流できる環境がとても素敵でした。この公民館には、年齢や立場に関係なく人とつながる力があると感じます。

これから実習に来る方へ一言メッセージです。国立市公民館は、とても楽しい場所です。実習を通してたくさんの刺激を受けることができると思うので、ぜひ楽しんで取り組んでください！

